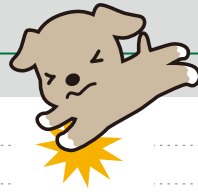


0歳のワンちゃんに多い骨折

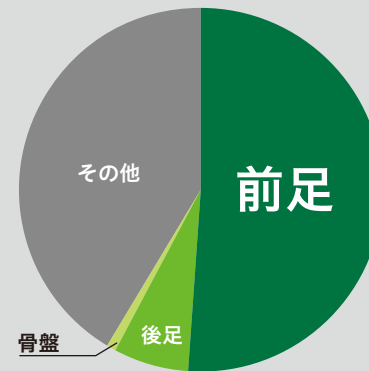
ワンちゃんの骨折の多くは0～1歳の間に発生しています。成長期のワンちゃんはまだ骨がもろく、特に小型のワンちゃんは、ちょっとした段差などでも骨折してしまうことがあります。

特に多い犬種 ポメラニアン、トイ・プードル、ヨークシャー・テリア、ミニチュア・ピンシャー、イタリアン・グレーハウンドなど

年齢別 骨折の発生率



骨折発生部位の割合



骨折の発生部位では前足が約半分！

ワンちゃんは、両前足をそろえて着地するため、足首とひじの間に大きな負担がかかります。この部位は2本の細長い骨で支えられており、体重が数kgの小型犬などは極めて細く、折れやすいのです。飛び下り事故の時の衝撃により骨折をしてしまうこともあるため、ジャンプして飛び下りないように部屋を工夫するなどの対策が必要です。

骨折による
年間平均診療費 **¥ 67,558円**
(アニコム損保へのご請求の一例)

※記載のデータは2015年6月1日から2016年5月31日までの間にアニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の契約を開始した0～12歳の犬477,980頭を対象に調査したものです。

よくある骨折事例と予防策

case1 お子様による抱っこ中に手から離れて落下してしまいました。

予防策 お子様から目を離さないようにし、大人がサポートしてあげましょう。

case2 ソファや段差のある場所から飛び下りてしまいました。

予防策 家族がサポートして下ろしてあげる、下にクッションなどを置き、高低差をなくしましょう。

自力で登ることができる高さ以上の場所から固い地面に飛び下りるのが特に危険です！

楽しいコミュニケーションの時間や、人間が快適と感じる生活環境にも、ワンちゃんにとっては骨折の危険性が潜んでいます。小さなワンちゃんのプロテクターは、ご家族の皆さまです。ワンちゃんの骨折を防ぐため、おうちの中の環境と生活スタイルを再度確認しましょう。